



ありがとう、ロータリアン！ ②③ 43年ぶりの世話クラブ



世聯倉運（株）会長

黄 仁安 さん

出身：台湾

奨学期間：1969 - 70

学校名：神戸大学大学院

世話クラブ：神戸東RC

私は1970年に帰国してからこれまで、出張やプライベートで数え切れないほど日本を訪れましたが、お世話になった神戸東ロータリークラブ（RC）と連絡を取ったり、訪問したりすることはありませんでした。心の中では「いつか神戸を訪ねたい」と思いながらも、長い間、仕事に没頭する日々を過ごしていました。

そんな私の願いを知った学友仲間の^{ゲンインキョウ}阮允恭さんや、友人の孫娘で、私と同じ神戸東RCでお世話になった2011 - 12年度米山奨学生・^{サイヘイキワ}蔡秉芳さんの熱心な計らいで、昨年、神戸への旅が実現しました。

神戸東RCの向井菊美会員とメールで連絡し合い、神戸に向かう日が近づくにつれ、私は緊張とともに期待で胸が躍るのを感じました。

43年ぶりに世話クラブを訪ねて

43年ぶりの神戸。阪急六甲駅周辺は昔よく歩いた場所ですが、阪神・淡路大震災を経たためか、私が年を取ったせいか、目に入る景色を記憶の中に見つけることができず、浦島太郎になったような気持ちでした。

訪ねた例会場もかつてと異なり、集まった100人ほどの会員の皆さんを眺めても、知っている顔は見当たりませんでした。当時20代だった私が、会員の平均年齢を上回ってしまったのですから、当然かもしれません。

ところで、私は今回、感謝の気持ちだけでなく、米山奨学生になったことが、その後の人生にどれほど影響を与えたかを、世話クラブの皆さんにお伝えしたいと心に決めての訪問でした。



四三年ぶりに世話クラブを訪問して

カウンセラーとの出会いが今の仕事に……

1967年、日本に来た私は神戸大学大学院法学研究科の研究生となりました。大阪や神戸を転々としながら、四畳半の部屋でインスタントラーメンを食べたり、宝塚音楽学校の生徒の洗練された風貌に見とれたり、下宿先の優しい大家さんが、冬の寒い日に私を一番風呂に入れてくれたことを懐かしく思い出します。

修士課程の時に米山奨学生となり、神戸東RCが世話クラブとなりました。当時はロータリー推薦制度があり、私を奨学生に推薦してくれた松本一郎会員がカウンセラーとなりました。松本氏は大手海運会社の社長で、月刊誌『海運』の編集長でもありました。この月刊誌を読むようになり、海上コンテナ輸送に興味を持ちはじめた私は、当初学ぶつもりだった“会社法の日台比較研究”から“コンテナ運輸に関する国際法”へと専攻を変え、修士の学位を取得しました。

帰国後、省庁の運輸計画委員として4年間、研究企画に携わった後、コンテナ輸送会社を起業しました。現在は、日本をはじめ国内外の多くの企業から物流パートナーに選んでいただくまでに発展しています。

ロータリーという人生道場

1983年に一度ロータリーに入会しましたが、本社移

奨学生時代にお世話になったロータリアンへ感謝の心を持ちながらも、日常の忙しさなどを理由に、つい、連絡を後回しにしている米山学友は多くいると思います。今回はそんな米山学友の一人、^{コウジンアン}黄仁安さんが実に43年ぶりに世話クラブを訪問しました。黄さんは訪問先のクラブで、感謝の気持ちばかりでなく、母国でロータリアンとなり、ロータリー精神とともに歩んできた半生を語りました。

転により退会。その後、1995年に台湾の米山学友を中心に誕生した台北東海RCの創立会員となり、以来、約20年間、毎週の例会に出席し、人生の道場で修業すべく、充実した愉快的日々を過ごしています。「ロータリーの目的」は、どんな時でも試練に耐え得る人生の指針です。「四つのテスト」とともに、常に自分の心に問いかけ、生きるよりどころとなっています。

ロータリアンになって視野も広がりました。国際ロータリーテーマから事業戦略のヒントを得たり、クラブ運営を参考に、自社でも社員とその家族の懇親会を開くようになりました。近年、日本で第2580地区の地区大会に参加して耳にした“コンプライアンス”の概念が非常に印象的でした。次第に心深く根差すようになり、現在では企業倫理の実践として取り入れています。

1998年には私自身の願いと、亡き母を記念するために「財団法人世聯倉運文教基金会」を設立し、身寄りのない高齢者の慰問や伝統文化の振興、奨学金の支給、自然環境保護などの社会貢献活動をしています。

第二の人生もロータリーとともに

今回の訪問で、松本氏ばかりでなく、ご子息までもがすでに他界されたことを知りました。時の流れを実感するとともに、もっと早く連絡を取るべきだったのに、そうしなかったことに後悔が残ります。私は70歳を過ぎ、体の

衰えはいくらかあるものの、思考や気力はまだまだ充実しています。松本氏は亡くなった後、港湾や海運に関する文献を地域の図書館に寄贈されたそうです。後進の育成にも尽くした彼の生き方に学びながら、私もこれからは、仕事一筋の人生から、社会へ貢献する人生へ向かって歩いていきたいと思っています。これまで私の仕事人生を支えてくれたのはロータリーの精神だったし、第二の人生もロータリーとともに歩いていくつもりです。

神戸東RC
向井菊美氏から一言

40年以上も前の米山学友で、今の会員は誰も彼を知らないまま、お迎えしました。これほどの年月がたっても、変わらずにわれわれに対する感謝の念を持ち続けてくださっていたことが驚きですし、学友の皆さんの気持ちをあらためて認識し、会員一同、大変うれしく思いました。



ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

さいたま大空RCが認証状伝達式を開催

昨年11月に創立された、さいたま大空RC（第2770地区）の国際ロータリー加盟認証状伝達式が3月23日に開かれ、出席者約280人で門出を祝いました。さいたま大空RCは、24人の創立会員全員が財団学友と米山学友で構成されており、平均年齢35歳、出身が6つの国・地域にわたる国際色豊かなクラブです。創立会長を務める米山学友の李成哲さん（中国／2005-06／川口モーニングRC）は「国や民族、宗教、言葉などが違って、私たちは皆、ロータリーとの出会いによって、人生に大きな影響を受けました。お互いを尊重し、共に奉仕活動を行う中で友情を育み、その素晴らしさを世界の平和のために発信していきたい」と、力強く語りました。



加盟認証状を掲げる李成哲会長